

分科会（理念I）委員意見とりまとめ結果

理念I：「産業」と「自然」がつながるまちづくり（産業・雇用・環境・景観）

基本目標	施策分野	取組	委員意見
① 自然と共生した資源循環型産業をつくる	① 農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 農地の維持・管理・保全 ● 奥出雲の強みを活かした特色ある生産と販売 ● 農業の生産性向上のための新技術の導入 ● 棚田を活用した農村振興 ● 安全・安心で売れる農産物の生産 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新技術の導入「スマート農業の推進」に注力して欲しい ⇒担当課）ICT、IoTの導入については民間事業者の協力も含め取り組んでいる。具体的に農業振興策に取り入れていきたい。 ● 農業の振興には鳥獣対策が必須。担い手といっても難しくなければいけない。 ● 「日本農業遺産」「世界農業遺産」というキーワードは前に出すべき ● 横田は農地が荒れて自助では難しくなっている。公助でやることを考えて欲しい。
	② 畜産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 奥出雲和牛の生産基盤の維持拡大 ● 耕畜連携による資源循環型農業の推進 	
	③ 林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 山林の保全と基盤整備 ● 特用林産の推進 ● 山林の多面的利用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 林業は、森林、林業、木材生産の区分けで整理をするとうい。
	④ 環境・エネルギー・景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林環境の保全・創造 ● 自然と共生する環境の形成 ● 循環型社会の構築 ● 新エネルギーの導入支援 ● 景観形成の推進 	
② 人を惹きつける経済とブランドをつくる	① 商業・工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 商工事業者への経営支援 ● 地域内消費の喚起 ● 地域資源を活用した産業の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ジビエ」など採算に合わないものを推奨すると逆に人が避けるのでは？ ● 人口減少していく中でも、各地域に商店が残るような取り組みを。地元で日用品の買い物ができるように考えて欲しい。 ● 小さな拠点の中で、日用品の買い物サービスも含めるなどの対策が必要 ⇒担当課）買い物支援サービスにおける業者対応も考えていく。
	② 観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光情報発信・プロモーションの強化 ● 観光資源の魅力化 ● 受入れ体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「農泊、民泊」を進めていかないといけない。 ● 観光資源の「魅力化」はキーワードとして分かりにくい。「掘り起こし」が良いのでは？
	③ 奥出雲町ブランド構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 奥出雲産品のブランディング ● 農畜産物のブランド化 ● 林産物のブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> ● プロモーションが下手。良い商品はある。ブランド化はできている。
③ 活力と地域を支える担い手をつくる	① 経営支援・担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域産業の担い手育成・確保 ● 営農組織の強化と担い手の育成 ● 林業の担い手と就業者の確保 ● 人材不足業種への人材確保支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業の担い手は、横田高校卒業生。地元就職は通勤に車が必要などハンデがある。就職する子どもたちが、外に出ない施策が必要。 ● 企業経理が分からない人が起業し、経営が持たないケースがある。創業支援には資金運営も含めた支援が必要。
	② 企業誘致・起業支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致の推進 ● 起業支援の促進・新たな働き方の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致よりも地元企業の支援を。一番大事なのは地元。 ● 企業誘致より個人誘致（IT企業）
注力すべき取組			
<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ対策やコロナへの危機感。新しい生活への対応が、この計画には見えない。コロナ禍により、サプライチェーンやデジタル化が不足していることが明確になった。デジタル化が大事。総務省は10年かかっていたものを今後一気に加速すると示している。総務省はデジタル化の支援員を普及する。産業だとデジタル化されたサテライトオフィス（レンタルオフィス）みたいなものを整えて使いやすくするなど早急が必要。 			

分科会（理念Ⅱ）委員意見とりまとめ結果

理念Ⅱ：「人」と「心」がつながるまちづくり（定住・地域コミュニティ・子育て・教育・文化）			
基本目標	施策分野	取組	委員意見
④ 人々がつながるコミュニティをつくる	①定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 「住みたい」を叶える環境づくり ● 奥出雲を愛する関係人口づくり ● 雇用の場の確保 ● 情報発信による移住定住の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口の転出要因は「住宅」が大きい。町民意識調査では30代の住宅ニーズが高い。定住対策では重要である。 ⇒担当課）昨年度から住宅整備支援事業に取り組んでいる。（令和元年では28件が採択） ● 住宅整備支援制度の認知度は？ ⇒担当課）広報や事業者による周知をしている。空き家への入居について親世帯との近居ニーズなどであるが、所有者の理解が得られる入居できないことがある。 ● 空き家には仏壇が残っているケースがあり、貸せないケースが多くある。人に貸すには所有者の理解が必要。 ● 独居高齢者になったとき、子どもの世代が帰って来ない。結果空き家が増えている。 ⇒担当課）空き家の管理者が高齢になり、管理者が不在になることがある。早めの対応が必要。 ● 横田地区は都市計画区域が定められており、接道義務により家の建て替えができないケースがある。自分の土地があっても新築が建てられない。 ● 住環境は重要。進学・就職で町外に出ると、年数がたつほど帰ってきにくくなる。この町に住む魅力が非常に重要なのではないかと。女性に良いと思うことが重要。
	②住民主体のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さな拠点づくりの推進 ● 幸せで安心して暮らせるまちづくり ● 未来を担う人づくり ● 価値を生み出すまちづくり 	
	③多様性社会の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての世代が笑顔で暮らせる社会づくり ● 多様な人材が活躍する仕組みづくり ● 高齢者の活躍推進と社会参加の促進 	
⑤ 豊かな心と文化を育てる環境をつくる	①結婚・子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり ● 安心して子育てができる支援体制の推進 ● 幸せな未来をつくる出会いづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定住のためには子育て環境が重要。 ● 核家族にもメリットがあるが、何かあったときに子どもが預けられるなど2・3世代同居にもメリットがある。 ● 3世代同居が少なくなっており、親世代を頼りたくてもできない状況がある。家族間の子育てに対する親世代の理解を促進する必要がある。 ⇒担当課）祖父母世代に今の子育てを理解してもらう取組として、2年前から孫育て手帳を出生時に配布している。
	②学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 再編を見据えた学校運営（支援）体制の充実と施設整備 ● 子どもが地域と深く関われる学びの体制づくり ● 横田高校・専修学校の魅力化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年の高校からの町内就業は17人とかなり多かった。「地元っていいよね」と感じさせることが大切。 ● ふるさと教育を通じて地元にいる安心感が育っており、定住にも影響している。 ● 人口が減っていても地域で「つながり」何とか課題を解決していくことが重要。 ● 学校と家庭の往復だけでなく、地域のことをよく知ってもらうことが大切。そのためには、地域の協力が重要。 ● 学校教育の中で、どのくらい算盤教育に取り組んでいるのか。暗算教育は、子どもの頭脳を鍛えるのに効果があるのでは？
	③社会教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育と連携したふるさと教育・キャリア教育の拡充 ● 奥出雲を愛する多様な人づくり ● 社会教育における学びの充実 ● 人権・同和教育の推進 ● 既存施設を活用した図書館の整備 	⇒担当課）社会教育の中でも「奥出雲町の良さを語れる」取組をしている。これからも続けていきたい。

理念Ⅱ：「人」と「心」がつながるまちづくり（定住・地域コミュニティ・子育て・教育・文化）			
基本目標	施策分野	取組	委員意見
⑤ 豊かな心と文化を育てる環境をつくる	④ 地域文化・スポーツ振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化の薫り高いまちづくりの推進 ● 「奥出雲の宝」文化財の保存と活用 ● いきいきライフを支える生涯スポーツの充実 ● 町民に夢と感動を与える競技スポーツの振興 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化協会でも少子高齢化の波が来ている。子育て世代は関心があっても多忙で参加できず、活動の中心が高齢者となり若い人の参加率が低下し後継者が育たない。 ● 団体数は108団体から90数団体、グループ構成員は3000人から2000人に減少している。若い人に入ってもらい、世代間交流が望まれている。
	⑤ 地域間交流・国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係人口の拡大と地域間交流の促進 ● スポーツ大会・合宿誘致 ● 多文化共生・国際交流の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 算盤を通じた国際交流は、子どもたちに世界を見て欲しくて始めた。グローバル化は地元を知ることにもつながる。外から町をみることができる人材が必要。グローバルな視点を持つ人材が必要。
注力すべき取組			
<ul style="list-style-type: none"> ● 収入がなければ、定住もできない。今は農業だけでは生活できない。 ● 個別の企業で雇用できる従業員数には限りがある。働ける数に合わせたまちづくりや今の町の規模でどのくらい雇用を生み出せるのかを考えて、魅力的なまちづくりを進めていく必要がある。 ● 昔は家、田畑を守るために子どもの世代が、帰ってきて地域の発展につなげることができた。山間部に人が住まなくなると山が荒廃し、大水が発生するなど都市生活にも影響する。山間部だけ、都市部だけでなく、全体的な視点が必要。 ● 今の若い世代が安心して子育てし、暮らせるかに尽きる ● 子育て世代を取り巻く環境は、遠距離通勤、3世代同居でも親世代の就業、1ターン世帯をはじめとする核家族化など厳しい。子育て世代の実態が変わってきている。ニーズを見極めて対策することが必要 ● 定住には若者世代の繋がりづくりが重要 ● 若者世代のつながりづくりや所得を得られる独自の仕事づくりをし、若者世代を引き込む働きかけが必要。（例えば、農業では法人化や耕作面積を集積して、若い世代に任せ所得を得られる仕組みづくりをするなど） 			

分科会（理念Ⅲ）委員意見とりまとめ結果

理念Ⅲ：「安心」と「暮らし」がつながるまちづくり（福祉・医療・安心・安全・基盤整備）

基本目標	施策分野	取組	委員意見
⑥ 健やかで安心安全な暮らしをつくる	① 健康づくりと介護予防の一体的推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ぐるみで取り組む健康づくり ● 健康寿命延伸に対応した健康づくり ● 介護予防の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護を必要としていない自立した高齢者の活躍できるボランティア組織に注力してはどうか。廃校舎を拠点とするなど、仕組みづくりをしてほしい。 <p>⇒担当課）シルバー人材センター登録は増加している。地域の困り事対策で活躍していただける仕組みづくりをしていきたい。</p>
	② 地域福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者福祉の充実 ● 生活困窮者の支援 ● 生活援護の確保 ● 認知症支援対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「車が運転できなくても安心して暮らせる仕組み」が意識調査でも求められるなど、無人運転などを想定したインフラ整備が必要。 ● つなぐ、つながるテーマは、現役高齢者がボランティアで活躍できる仕組み、財政的にも補助しやすいものを（福祉、美化活動等）
	③ 地域医療・介護体制の維持・充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療の維持・確保 ● 奥出雲病院の体制充実 ● 医療介護連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 親の介護のために、都会から帰って来ることができる環境づくりが必要（農業+テレワーク）そのためには通信基盤が必要 ● 介護では病院に長く入院できず、次に入居できる施設を待つことになる。施設の充足策が必要 ● 介護・福祉に関していき場に困る状態は絶対に避けなければならない。奥出雲病院に介護医療院が開設したことは、非常に進歩したといえるが、奥出雲町全体として最期を迎えられる体制をつくるのが重要。 ● 医療体制は、今後は広域的な体制の中で需要に応じた医師確保～広域医療（2次、3次医療）の組み立てが必要。大きな方針を示し町民の理解を得ていく必要がある。 ● 病院の病床確保の見通しは？⇒担当課）いずれ縮小の見通し
	④ 消防・防災対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災活動の推進 ● 災害弱者支援体制 ● 防災組織・体制の充実 ● 消防活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の自主防災組織は、防火クラブ止まり。自主防災組織の立ち上げに向けた意識啓発に力をいれて欲しい。
	⑤ 安心・安全に関する意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ● 町をあげての防犯体制の強化 ● 交通安全意識の向上 ● 消費者自立支援の推進 	<p>⇒担当課）自主防災組織は、小さな拠点づくりの中でも議論をしていただいている。小さな拠点づくりでも安心・安全に力を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 奥出雲町は災害が少ないが、防災にも力をいれて「安心」を定住のアピールにつなげて欲しい ● 安心・安全・健康で他地域と差が出ないように対応・啓発が必要
⑦ 産業と暮らしを支えるインフラをつくる	① 公共施設の活用・適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の有効活用 ● 公共施設の耐震化・防災拠点の整備 ● 学校再編に伴う施設の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の今後の維持管理について、5年・10年先の見通しは？病院や学校などの公共施設の維持管理について計画が成り立つか？
	② 生活基盤・交通基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路の新設・改良、維持管理 ● 上水道の改良、維持管理 ● 下水道の改良、維持管理 ● 安定した交通手段の維持 	<p>⇒担当課）水道経営は人口減少を考え料金も変わる。補助などを考慮して、今後10年の計画を立て数年ごとに見直し、老朽施設の補修を行っていくなど、健全経営をしていく。</p> <p>益者負担は難しい問題</p>
	③ 住宅施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある住まいの確保 ● 空き家の利活用と ● 老朽危険空き家の除去 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単身者用住宅が不足している。空き家対策として、若者用に改築して需要に応じてはどうか。 ● 空き家対策にむけて、若者向けに改修、入居者募集が必要
	④ 地域情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報通信基盤の整備 ● 情報化社会に対する人材育成等の推進 ● 情報サービスの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5G活用のインフラ整備が必要。自然環境が豊かな中で仕事ができる子育てもできる環境を整え、テレワークを呼び込む ● 5Gの民間事業投資を田舎に期待するのは困難。行政対応が必要。 <p>⇒担当課）5G事業者の対応を引き出せない可能性あり。新政権でIT加速に期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル田園都市構想は、デジタルで田舎に取り込む施策。都市集中の是正や人口を全国に分散させることへの期待がある。 ● デジタル田園都市構想促進に期待。国のスピードアップと町の補助金獲得の戦略必要
注力すべき取組			
● 5Gでは担えない看護や介護などアナログ対応も強化が必要			